

神宮前五丁目地区 まちづくり検討会

第4回 会議資料

令和6年12月25日

東京都

神宮前五丁目地区まちづくり検討会

第4回 会議資料【目次】

1. 昨年度まで（有識者会議～これまでの検討会）の振り返り	1
2. 当地区の将来像（案）	5
3. 当地区におけるまちづくりの方向性（イメージ）	9

検討会スケジュール

第1回	令和5年2月17日開催	有識者会議の振り返り、現況等の整理
第2回	令和5年3月29日開催	当地区及び周辺の強み・整備課題等のまとめ
第3回	令和5年6月30日開催	当地区のまちづくりの基本的方向性の検討
第4回	令和6年12月25日開催	当地区におけるまちづくりの方向性（イメージ）

1. 昨年度まで(有識者会議～これまでの検討会)の振り返り

<有識者会議提言集>

有識者会議の提言集より (一部修正)

検討を通じて計画地の取組内容を具体化するにあたり、東京都の中心部におけるまちづくりの基本的な取組事項とポストコロナのまちづくりの視点との関係を図示

東京都の中心部におけるまちづくりの基本的な取組事項

渋谷・青山の地域特性
(都市基盤、機能、周辺開発、まちづくり組織等)

国際競争力強化

みどり豊かな
都市環境や景観形成

環境負荷低減
(カーボンニュートラル等)

防災対応力強化



ポストコロナのまちづくりの視点

視点

Well-being

①

人々のウェルビーイングに着目したまちづくり

- ウェルネス、ウェルビーイング、「量だけでなく質」などの新たな志向に配慮
- 大都市における集積の考え方を整理し、ポストコロナにふさわしい公共空間整備を推進

視点

Open & Flexible

②

将来の不確実性や、多様性等の社会ニーズを受け止められるような設えや仕組みづくり

- 技術進化や社会ニーズの変化、平時・非常時に応じて、機能や設備が入れ替えられる空間の柔軟性や可変性を確保

視点

Virtual & Real

③

リアルとバーチャルのハイブリッドによる新しい日常の創造

- バーチャルをいかしたまちづくりと、地域の即地性・固有性(風土・歴史・文化等)をいかしたまちづくりの両立

基本的な取組の
バージョンアップ

※ポストコロナのまちづくりの視点や渋谷・青山の地域特性を踏まえ、検討を通じて計画地の取組内容を具体化

1. 昨年度まで(有識者会議～これまでの検討会)の振り返り

第3回検討会資料より(一部修正)

- 有識者会議の提言及び本検討会のこれまでの委員からの御意見、上位計画、土地利用現況等の強み・課題を踏まえ、当地区のまちづくりを具体化に向け、まちづくりの基本的考え方の検討項目を整理した。

<有識者会議の提言> (令和4年5月)

上位計画

土地利用現況等
強み・課題

委員からの御意見

まちづくりの基本的考え方の検討項目の整理

遊びと学びの場の創出

緑とパブリックスペースのつながり

様々な活動を受け止める場

閑静な部分とにぎわいとの調和

琵琶池を踏まえた空間

渋谷・青山等の主要な機能との連携

にぎわいの引き込み

当地区の各種支援機能の継承

1. 昨年度まで(有識者会議～これまでの検討会)の振り返り

- 土地利用現況等を踏まえ、まちづくりの基本方向を即地的に整理するための検討項目を整理する。

渋谷・青山等の主要な機能との連携

渋谷・青山の機能強化（子供の育成、クリエイティブ産業の育成等）

様々な活動を受け止める場の創出

ポストコロナのまちづくりを踏まえた、今後のまちづくりの視点

遊びと学びの場の創出

旧こどもの城の理念を考慮した遊びと学びの場の創出

琵琶池を踏まえた空間の形成

歴史的経緯等を踏まえつつ、親水性の高い空間を形成

当地区の各種支援機能の継承

起業家等の各種支援機能等の継承

緑とパブリックスペースのつながり

公園、周辺開発等の緑とのつながりを感じられるような緑の配置

にぎわいの引き込み

青山通り等のにぎわいを引き込み、歩行者ネットワークを形成

閑静な部分とにぎわいとの調和

にぎわいと後背に広がる住宅地の共存・共栄

第3回検討会での主なご意見

<活動という視点で計画地を捉える>

- ・ 利用者の属性でカテゴライズするのではなく、遊びや学び等の活動という視点で計画地をとらえることも必要。
- ・ 特定の機能ではなく、利用者に活動を想起させるような計画も加えて欲しい。

<機能の混合・融解>

- ・ 最近の文化交流施設は、様々な機能の複合化・集積化による相乗効果で、魅力的な場所となっている。
- ・ 例えば、図書館は行政サービスの中で最も市民に使われる施設であり、博物館や美術館等すべて分かれて行われてきていたものと一体的・融合的になることによる複合・集積化等により図書館の枠組みを超えたような知的な拠点が生まれている。
- ・ 琵琶池や自然環境等を活用して、多様な機能集積と空間活用を考えることが重要。
- ・ 複合化・集積化は機能混合・機能融解等に発展し、対象を限定せず、フレキシブルに活動・空間を考えることが大切。例えば、スポーツ施設では、特定の競技に限定せず、様々な競技や、ミュージカル、エンターテインメントの場として活用する等、可変的で多用途対応が時流となっている。

<「閑静」・「にぎわい」の解像度を高める>

- ・ 青山病院跡地は小中学校の仮設校舎の建替え用地として数年間活用する予定であり、子供が活動する場所としての文脈もできる。

<時間軸の観点を組み込む>

- ・ 計画地の利用を一義的に決定するのではなく、時間軸を加味した利用やニーズを想定することで、可変性やマネジメントにもつながる方針となる。
- ・ 時の流れに沿って価値も変わっていくため、当事者として評価手法をマネジメントできる主体が必要。

<追加ワード>

- ・ これまでの検討会で議論されていたゼロカーボン、グリーン、ダイバーシティといったワードも上手く位置づけられると良い。

(国連大学より)

計画区域の一員として、積極的にコミュニティに関わり、より良い場所にしていく



1. 昨年度まで(有識者会議～これまでの検討会)の振り返り

<これまでの検討経緯と第4回の位置づけ>

<有識者会議の提言> (令和4年5月)

第1回検討会の意見
(ポストコロナ、計画地の強み・課題)

第2回検討会の意見
(3つの視点の計画地への落とし込み)

まちづくりの基本的考え方の検討項目の整理

遊びと学びの場の創出	緑とパブリックスペースのつながり
様々な活動を受け止める場	閑静な部分とにぎわいの調和
琵琶池を踏まえた空間	渋谷・青山等の主要な機能との連携
にぎわいの引き込み	当地区の各種支援機能の継承

第3回検討会の意見 (上記を踏まえた計画地での重要な視点)

子どもが
活動する場所

様々な機能の複合化・相乗効果の
ある魅力的な場の創出
(文化交流、図書館など)

可変性・
マネジメント

第4回検討会

当地区におけるまちづくりの方向性 (イメージ)

- ・ コロナ禍を経た当地区でのまちづくりの捉え方の整理
- ・ 将来像の整理
- ・ 導入機能の整理
- ・ 各機能間の連携による相乗効果を発揮するための取組の検討
- ・ 景観や環境に係る考え方の整理

2. 当地区の将来像(案)

コロナ禍を経た当地区でのまちづくりの捉え方

<有識者会議の提言> (令和4年5月)
(ポストコロナのまちづくりの視点)

視点
① **Well-being**
人々のウェルビーイングに着目した
まちづくり

視点
② **Open & Flexible**
将来の不確実性や、多様性等の社会ニーズを
受け止められるような設えや仕組みづくり

視点
③ **Virtual & Real**
リアルとバーチャルのハイブリッド
による新しい日常の創造

<委員からの意見等を踏まえた分析>

- ・ コロナ禍における社会経済活動の制限、外出や移動の自粛、混雑や密の解消等に起因し、テレワークやリモート会議の普及などデジタル技術を活用したオンラインによるコミュニケーションが進展した。
一方で、コロナ禍を経験した子供は対面でのコミュニケーションが苦手な傾向にある。
- ・ 人々が集まって過ごす時間の大切さや居心地の良さのといったリアルの体験価値の重要性を再認識するなど、都民の生活意識、行動様式や企業活動は大きく変化
- ・ 今後のまちづくりにおいては、こうした価値観の変化や多様なライフスタイル等の多様性を認めあうサードプレイス※の形成により「人間中心社会」の実現が求められるようになった

※第1の居場所は自宅で生活を営む場所、第2の居場所は職場や学校、第3の居場所がコミュニティの核になる「居心地よい場所」
(レイ・オルデンバーグ (2013年))

※サードプレイスの有無と幸福感には関連性があり、サードプレイスを持つ人は幸福感が高いとされている
(地域差とコロナ前後の比較によるサードプレイスと幸福感の関連性の研究、橋本他 (2021年))

- ・ 当地区のまちづくりは、こうした視点を踏まえ、人と人が出会い、交流するリアルな場を創り、文化やエンターテインメント、自然の豊かさなど、オンラインでは代替しがたい「楽しさ」「美しさ」を存分に享受し、誰もが**自己実現を図ることができる場所**としていく。また、日常的な時間軸での変化を受け止めるフレキシブルな空間形成を図っていく。
- ・ そのような場所とするため、リアルの体験に価値を見出しつつ、最先端のデジタル技術や仕組みも活用することで、生活の質や満足度向上に向けて一人一人が多様な選択をし自分らしく過ごせる居場所としてサードプレイスを提供し、**ウェルビーイングの向上**に取り組んでいく。

2. 当地区の将来像(案)

(神宮前エリアの地域特性)

- 文化・交流機能、クリエイティブ産業、コンテンツ産業等の集積
 - エンターテインメント等の文化の発信
 - 青山学院大学など多様な教育機関が文教地域を形成
 - 渋谷と表参道等の結節点として多様な人が集まる
- ⇒文化・交流、教育等が集積し、渋谷と表参道等との結節点として、多様な人が行き交うまち

(地区の現状・特性・歴史)

- 旧こどもの城：「子供の健全な育成」に重要な役割
 - 青山劇場・円形劇場：「芸術文化の創造、発信地」、「多くの人々の文化芸術活動への参加・交流の場」
 - 国連大学：グローバルなシンクタンクであり、SDGs課題解決のため研究や教育を実施
 - コスモス青山：ビジネスと文化と社会活動の交流をテーマに、女性支援施設や企業支援施設などが入居
- ⇒子供、国際交流、女性、スタートアップなど、様々な支援等に係る機能が個々に効果を発揮

※都民の城改修基本計画の見送りの際は、“理念を生かす”と整理

(検討会の議論)

● まちづくりの基本的考え方の検討項目

- ・ コロナ禍を経た当地区でのまちづくりの捉え方
⇒人と人が出会い、交流するリアルな場を創り、誰もが自己実現を図ることができる場所としていく
- ⇒一人一人が多様な選択をし自分らしく過ごせる居場所としてサードプレイスを提供し、ウェルビーイングの向上に取り組んでいく

● 上記を踏まえた計画地での重要な視点

- ・ 子供については、基本的に取り組まなければならないテーマ
- ・ 様々な機能の複合化・相乗効果のある魅力的な場の創出
- ・ 時間軸を加味した利用やニーズを想定し、可変性やマネジメントについて検討

(都の基本計画)

- 【人】都市の活力の源泉は「人」。人への投資を一層加速一人ひとりが主役（未来の東京の実現に向けた重点政策方針2024）
- 【文化】「芸術文化で躍動する都市東京」（東京文化戦略2030）
- 【子供】子供の社会参画の機会創出、社会全体で子供を大切に（チルドレンファーストの社会の実現に向けた子供政策強化の方針2024）

将来像

子供をはじめとした誰もが

集い・つながる「知の創造拠点」

機能間の連携による多様な人々の交流や創造活動が、新たな文化・アイデアの創造、個々人の成長につながる場

豊かさを実感し 自分らしく過ごせる「サードプレイス」

多様な過ごし方を選択できる
“ゆとり、活気、コミュニティ”のある憩いと交流の場

2. 当地区の将来像(案)

■将来像を実現するために必要な機能を発揮する場の検討

「**知の創造拠点**」には
どのような機能が必要か？

(連想されるキーワード)

- ・ 多様な人々が集まり、出会う
- ・ 新しい知識や技術が生まれる
- ・ 個々人が成長できる
- ・ 豊富な情報が蓄積されている
- ・ 知識が習得できる
- ・ リラックスできる

「**サードプレイス**」には
どのような機能が必要か？

(連想されるキーワード)

- ・ 誰もが行きやすい
- ・ 誰でも使える
- ・ リラックスできる
- ・ 人と交流ができる
- ・ 精神的にリフレッシュできる

これまでの検討会でのご意見

- ・ **新しいタイプの公共施設**が必要
- ・ **人中心の空間、人に投資する街**が良い
- ・ 最近の文化交流施設は、**様々な機能の複合化・集積化による相乗効果で魅力的な場所**となっている
- ・ 図書館は行政サービスの中で最も市民に使われる施設である。また、**博物館や美術館等で行われていた知的活動の集積化により図書館の枠組みを超えたような知的な拠点が**生まれている

《新しいタイプの図書館の特徴》

- ・ 人々の交流拠点、コミュニティの核
- ・ 様々な利用形態に応じた居場所を提供
- ・ 出会いと交流・体験・情報収集を促進
- ・ 知的好奇心・学習意欲を喚起
- ・ 居心地を高め創造力を刺激

⇒ **新しいタイプの図書館**の特徴は**将来像の実現に必要な機能に合致**

➤ 「**知の創造拠点**」「**サードプレイス**」を実現する場として、**新しいタイプの図書館**を軸に検討

世界の新しいタイプの図書館

Oodi (フィンランド)
(Public Library of the year 2019)

- ・ 住民の出会いと交流の広場
- ・ 創作活動を通じた学びの場
- ・ 年齢を問わず居心地の良い空間



[出典]ヘルシンキ中央図書館 (フィンランド)

創造・交流図書館を軸に他機能と相互連携し、
「**知の創造拠点**」「**サードプレイス**」を形成
(都立中央図書館の設置を想定)

《都立中央図書館の新たな方向性の検討》

- ・ 施設の老朽化等を踏まえ再整備を見据え、新たに**知の創造に繋げる機能等**を付加することを検討
- ・ 再整備は現地改築では困難であるため**移転**を検討

2. 当地区の将来像(案)

■将来像を実現するための導入機能の検討

「知の創造拠点」と「サードプレイス」の実現のためには、多様な機能間の相互連携が必要

軸となる機能

創造・交流 図書館機能

今までの枠組みを超えた創造・交流図書館を軸として、その他の導入機能と連携し相乗効果を発揮しながら、まちの将来像を実現していく

⇒創造・交流図書館（都立中央図書館）を当地区に設置（想定）

創造・交流 機能

訪れる人の知識や創造性、好奇心を育てるとともに、人々の活動・交流の受け皿となり、人々の個性や可能性を開く

子供の体験 機会創出機能

乳幼児から中高生まで、子供の興味・関心に応じて多様な体験ができる場を創出することで子供の将来の可能性を広げるとともに、子供を育てる親にも親同士の交流機会や憩いの空間を提供

劇場機能

芸術文化に触れることで、多様な人々の感性を育むとともに、他機能との相乗効果により、新たな価値の発見をもたらす

女性活躍 機能

女性のキャリアアップや活躍の基盤づくりを後押しするとともに、その知見を活用し新たな価値を創出・発信

起業支援 機能

優れたアイデアを持つスタートアップへの育成支援に加え、アントレプレナーシップ教育などにより、多様な人々の好奇心喚起・創造意欲を創出

緑地・広場 機能

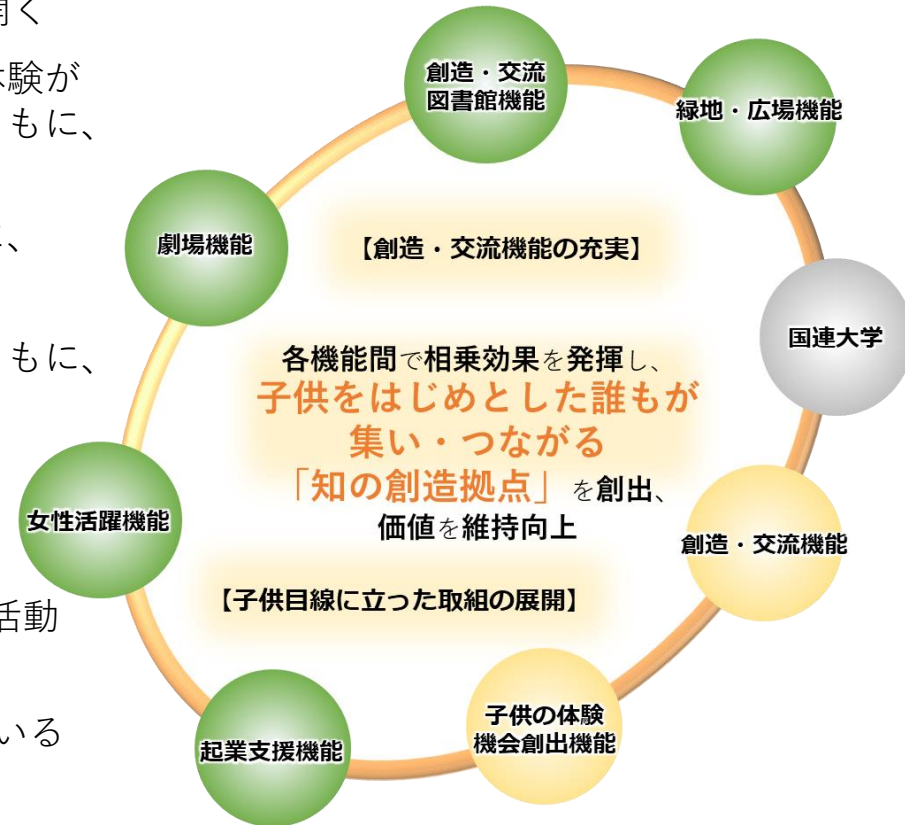
居心地の良い空間で各機能や人と人がつながり創造・交流活動を誘発

国連大学

SDGsなど様々な国際課題解決のため研究や教育を実施している国連大学と協力連携することで「知の創造拠点」を共創

4敷地の一体的な活用の視点

4敷地を一体的に活用することで、当地区の効用を最大限発揮させ、都の政策実現を図るとともに、地域のニーズや周辺まちづくりに貢献するため、旧こどもの城とコスモス青山の敷地も活用し、『知の創造拠点』と『サードプレイス』を一体的に整備する



3. 当地区におけるまちづくりの方向性（イメージ）

■導入機能：創造・交流図書館

調査・研究に役立つ図書館という従来の強みを活かしつつ、新たな知を創造する機会を提供する機能として、創造・交流図書館を当地区に導入

現在の中央図書館

- 調査研究に役立つ豊富な資料・充実したサービス
- 閲覧中心の空間

世界の図書館の事例

従来の閲覧提供機能に加え、文化的な対話の場、多様な学びの場、創作活動の場、インスピレーションを得る場など新たな価値や機能を提供



ヘルシンキ中央図書館（フィンランド）
出典：ヘルシンキ中央図書館ホームページ
(<https://oodihelsinki.fi/en/for-media/#photosofoodi>)
工作機器等の設備の充実した活動や交流の場



オスロ公共図書館（ノルウェー）
出典：オスロ公共図書館ホームページ
(<https://deichman.imageshop.no/1277905/Search>)
多目的ホールでのコンサート

当地区における都立中央図書館の在り方の方向性

「都立中央図書館の在り方を考える有識者会議」における意見等を踏まえ以下のとおり整理

- リアルな図書館の意義は、本から意外な発想や新たな発見を生むことにある。
- 図書館を活字の「本」だけでなく映像、音楽、人（知識、経験）などを含めた様々な知から新たな知を生み出す空間と捉える。

<コンセプト> 「Library for Creation（創造・交流図書館）」

<機能> 「知的好奇心を喚起し学びを深める」「人々の交流や創造活動を生み出す」「多様な知を集積・発信」

⇒ 新たな知の創造に繋げ、調査・研究という従来の強みを生かしたサービスを展開

- 当該地区に集積予定の多様な機能との連携を図りながら、東京全体の知の向上を図る。

3. 当地区におけるまちづくりの方向性（イメージ）

■導入機能：劇場

「知の創造拠点」として『芸術文化で躍動する東京』の実現に向け、多様な人々の感性を育むとともに、他機能との相乗効果により、新たな価値の発見をもたらす「劇場」を整備

まちづくりの方向性

- 「知の創造拠点」として、多様な人々が集まり、交流・創造活動を展開
- 「サードプレイス」として、“ゆとり、活気、コミュニティ”のある「憩いと交流の場」

都の芸術文化施策の方向性

- 「東京文化戦略2030」(R4.3)では『芸術文化で躍動する東京』を将来像に掲げ、「誰もが身近に芸術文化に触れられる環境整備」を戦略の柱の一つとして位置付けている。

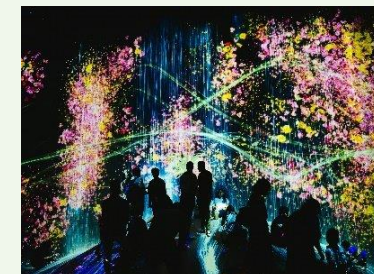
新たな劇場整備の方向性（案）

年齢や障害の有無などに関わらず、多様な人々が芸術文化に触れ豊かな時間を過ごせる劇場

誰もが親しみやすいミュージカルや子供も楽しめる作品などの上演を検討

デジタル技術への対応

かつてミュージカルを多く上演していた青山劇場と同規模（1,200席程度）



芸術文化に身近に触れて関心を深めてもらえる仕掛け

エントランスロビーに再現された演劇の世界を体験



劇場に関心のない人も気軽に訪れたいくなる空間

誰でも使えるカフェ・レストラン



「創造・交流図書館」等との相乗効果

上演作品と連動した展示



3. 当地区におけるまちづくりの方向性（イメージ）

■導入機能：子供の体験機会の創出

～子供の育ち、人生を“わくわく”“ドキドキ”で彩る～

「人」が輝く社会の実現に向け、一人ひとりが輝ける舞台を次の世代へと引き継いでいくため、親が経験した体験、経験しなかった体験、そして次代の新しい体験を、未来を担う子供たちへ

- ✓ 乳幼児から中高生まで、各ステージに合わせ、**子供目線**に立って**シームレス**に**遊び・学び・体験機会**を創出
- ✓ 子供たちの**初めて経験する時の「わくわく」、非日常を感じる「ドキドキ」**を大切に
- ✓ 子供だけではなく、**子供を育てる親にも親同士の交流機会**や**憩いの空間**を提供
- ✓ 体験等を通じた**子供・親の声**などを、都の**子供政策**や**子育て支援政策の充実**に生かしていく



子供の意見を反映

計画段階から、**子供の意見を聴き、反映させるプロセス**を導入

- ・計画段階における子供参加型ワークショップの開催等
- ・子供自身がプロジェクトマネジメントに関わり、まち全体の子供関連施策の運営に参画

3. 当地区におけるまちづくりの方向性（イメージ）

■導入機能：女性活躍・起業支援

「知の創造拠点」を実現していくため、女性活躍等・起業支援機能を整備し、他の各機能と連携しながら相乗効果を発揮

【取組イメージ】

<女性活躍等>

- ・女性のキャリアアップや活躍の基盤づくりを後押しするとともに、その知見を活用し新たな価値を創出・発信することで、女性が個性や力を最大限発揮できる社会を実現

<起業支援>

- ・優れたアイデアを持つスタートアップへの育成支援に加え、アントレプレナーシップ教育などにより、多様な人々の好奇心喚起・創造意欲を創出



■導入機能：国連大学

SDGsなど様々な国際課題解決のため研究や教育を実施している国連大学と協力連携することで「知の創造拠点」を共創（国連大学は現在地において引き続きまちづくりに協力）

【協力・連携の視点】

<国際交流>

- ・世界中から集まる研究者や学生と交流できる取組等を通じて、国際的な視野を醸成

<学び>

- ・国連大学の知見を広く都民に還元できる取組等を通じて、知的好奇心を喚起



3. 当地区におけるまちづくりの方向性（イメージ）

■導入機能：緑地・広場

各機能や人と人がつながり創造・交流活動が誘発されるとともに、人々が憩える空間を創出

- 様々な活動が受け止められる安全で居心地の良い憩い・創造・交流空間を創出する。
- 地区内の地形も生かしつつ、青山通り沿道のにぎわいを引き込む設えや人々が気軽に立ち寄り、滞在・休息・交流できるメリハリのある広場空間を創出する。
- グリーンインフラの導入（レインガーデン（雨水浸透）、屋上緑化など多層の緑空間など）や樹木の保全など、環境に配慮した取組を積極的に取り入れる。
- 平常時の定期的な防災訓練や災害時の避難・滞在空間としての活用等、地域の防災力向上に寄与する広場空間を創出する。

様々な活動の受け皿となる創造・交流空間



各機能と連動したワークショップ

出典：「JINNAN MARKET HP」<https://www.jinnanmarket.com/>



青山通り沿道のにぎわいを創出し
気軽に人々が立ち寄り交流

出典：「大丸有エリアマネジメント協会HP」
<https://ligare.jp/report/msp2023summer/>

既存の緑を生かした広場空間など居心地の良い空間



現在の琵琶池・みどり※

※活用方法については引き続き検討を行う



誰もが憩える空間

3. 当地区におけるまちづくりの方向性（イメージ）

■景観形成の考え方

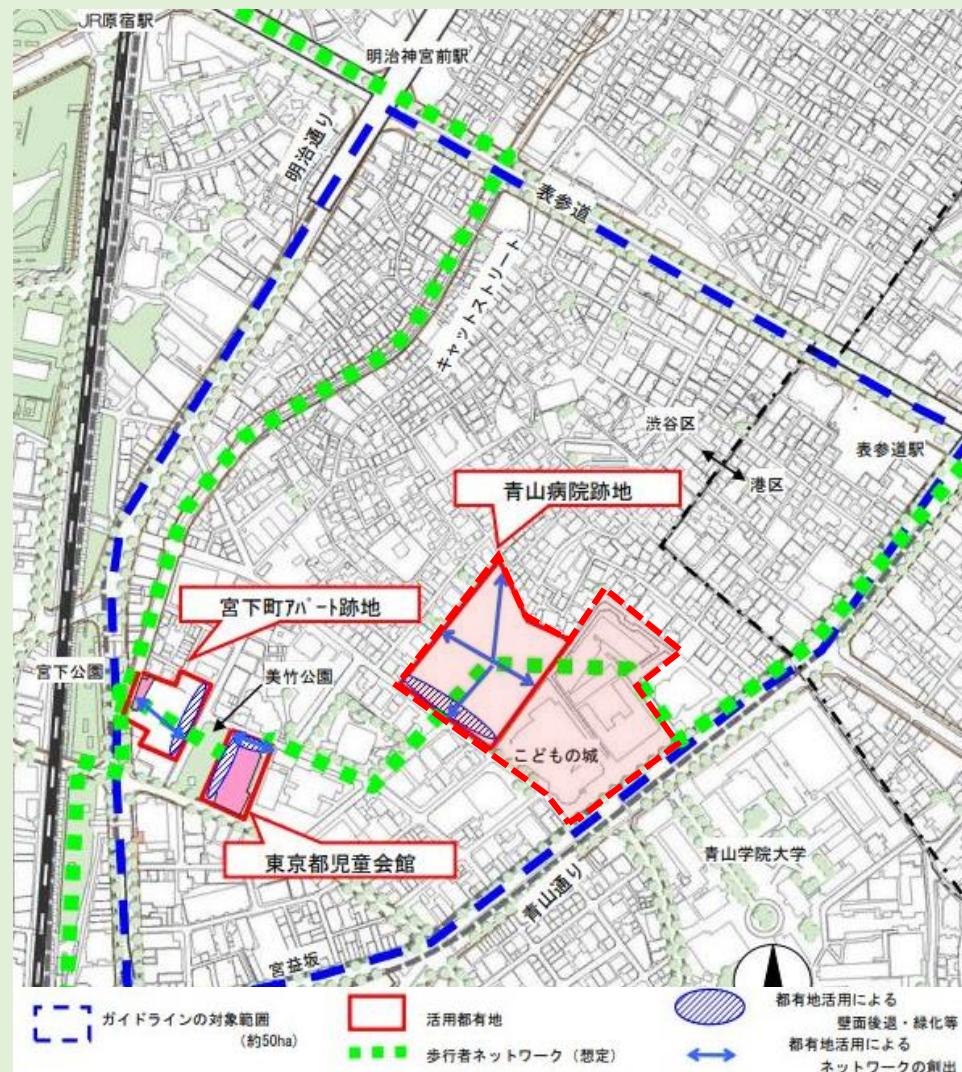
エリア特性を踏まえて、人が訪れたくなるような空間形成とする

- 青山通りからにぎわいを引き込み、人を呼び込む誘引力と回遊性を高める魅力的な空間を形成する。
- 青山通りや周辺道路から広場空間への視線の抜けに配慮する。
- 隣接するオープンスペースとの連続性に配慮する。
- 土地利用の特性に応じた照明により、エリア全体の夜間景観のメリハリに配慮する。

渋谷地区ステップアップ・ガイドライン →
【周辺環境と調和する活用イメージ】（一部加工）

<ステップアップガイドライン（抜粋）>

- 魅力あるにぎわい施設や快適な歩行空間を整備し、明治通りやキャットストリート、宮益坂及び青山通り等から地区内への人の流れを呼び込むような誘引力と回遊性を高める。

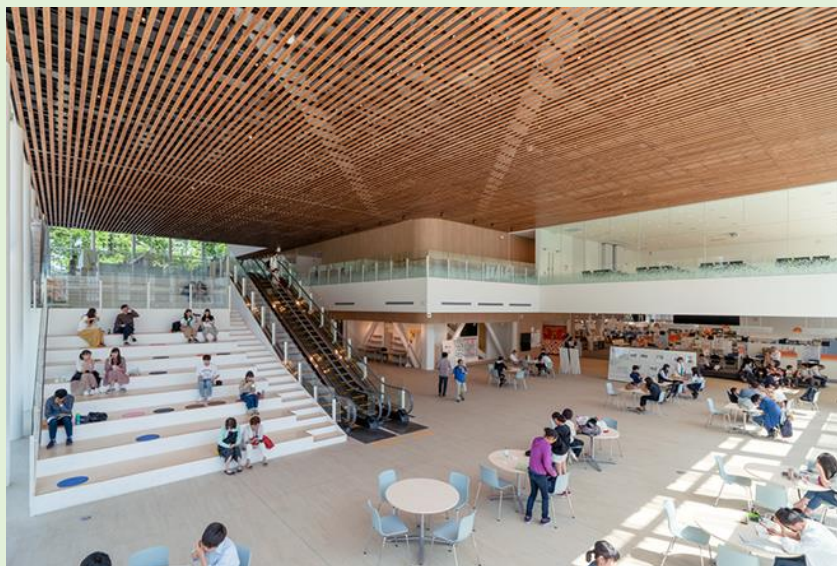


3. 当地区におけるまちづくりの方向性（イメージ）

■環境配慮の考え方

先進的な技術等による環境配慮を実践しながら、時代の最先端のモデルとなるまちづくりを実施

- 環境に関する新たな技術開発の動向も見据え、先端的な技術を活用しながら、ゼロエミッション東京の実現に寄与する。
- 建築物等における構造の木造化や、内装材及び屋外空間の設えの木質化等による国産木材の積極的な利用を、維持管理の観点も考慮しながら検討する。
- 環境問題や環境負荷低減のための取組に触れられるなど、こどもや学生の環境意識の醸成に資する取組を実施する。



さいたま市立大宮図書館

出典：大宮図書館ホームページ (<https://www.omiya-library.jp/>)



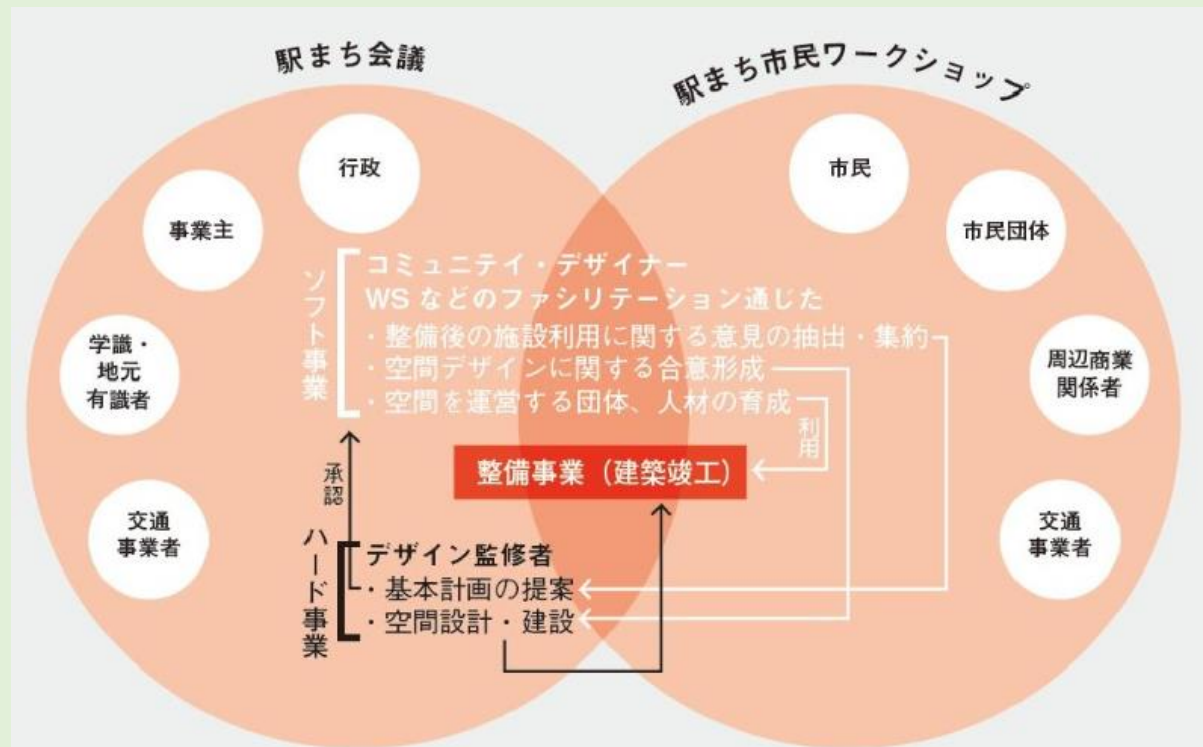
こどもの環境意識啓発

3. 当地区におけるまちづくりの方向性（イメージ）

■各機能間の連携による相乗効果を発揮するための取組

- 各機能が相互に連携しながら「知の創造拠点」を創出・価値の維持向上を図るため、各主体の意見の取りまとめ・調整役を中心に、各機能の管理運営者も含めたプロジェクトのマネジメント体制を構築し、施設計画や運営プログラム等について協議
- 計画段階から事業の内容（事業企画、施設計画等）について、外部の専門家の意見も踏まえながら協議調整し、具体的な計画を取りまとめる
- 運営やプログラム等についても協議調整し、時代のニーズに応じた「知の創造拠点」としての持続的な発展に寄与

（参考）－延岡駅周辺整備P Jの事例－



- JR（駅舎）、陸橋連絡路（市）、駅前広場（県）、複合施設（民間）など多様な事業主体が、一貫した空間デザインの視点で駅周辺の再整備を実施
- デザインの合意形成や、整備後の施設利用、運営に関する意見の集約を、コミュニティデザイナー（プロデューサー）が取りまとめ、施設設計に反映させた

出典：新しい挑戦を阻む行政制度,日経BP総合研究所,2017.0403,
<https://project.nikkeibp.co.jp/atclppp/PPP/report/032200042/?P=1>,
(参照 2024.12.25)

神宮前五丁目地区 まちづくり検討会

参考資料

【参考事例①】ヘルシンキ中央図書館(Oodi)

- 2018年、フィンランド独立100周年を祝う国のプロジェクトの一つとして建設され、開館。2019年に、国際図書館連盟から、Public library of the Year 2019を受賞
- 3階建て（10,000㎡）のうち、1階は、ロビーとホールを設置し、イベント、講演会、演奏会、展示などが常時行われ、2階は、テキスタイル、工芸、音楽、映像など最新の技術・設備を用いた創作活動が行えるよう、設備、スペースを設けている。3階に乳幼児から高齢者まで地域内外の多様な人々が読書を楽しめる空間を配置



特徴的でデザイン性のある外観

Photo: Kuvio
出典：ヘルシンキ中央図書館ホームページ
(<https://oodihelsinki.fi/en/for-media/#photosofoodi>)



開放的なエントランス



子供連れ家族などがあつまるスペース

Photo: Andrey Shadrin
出典：ヘルシンキ中央図書館ホームページ
(<https://oodihelsinki.fi/en/for-media/#photosofoodi>)



車椅子利用者にも配慮した書架

Photo: Jonna Pennanen
出典：ヘルシンキ中央図書館ホームページ
(<https://oodihelsinki.fi/en/for-media/#photosofoodi>)



最新設備が充実したラボ

Photo: Tuomas Uusheimo
出典：ヘルシンキ中央図書館ホームページ
(<https://oodihelsinki.fi/en/for-media/#photosofoodi>)



ゲームルーム

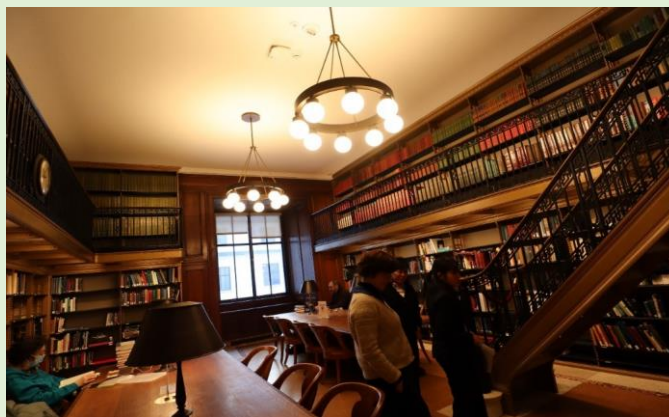
Photo: Jonna Pennanen
出典：ヘルシンキ中央図書館ホームページ
(<https://oodihelsinki.fi/en/for-media/#photosofoodi>)

【参考事例②】ニューヨーク公共図書館

- 世界屈指の規模を持ち、世界を代表する公共図書館の一つ（4館の研究図書館と88館の分館）
- 荘厳な雰囲気で見学客の多い本館に隣接して集団学習用の個室やレコーディングスタジオ等を備えた若者・子供向けの分館を設置。
- 92館で様々な機能を分担しながら、地域コミュニティの形成に貢献するためのサービスから企業のビジネス支援、就職活動支援、高度な学術研究の支援まで幅広いサービスを展開



荘厳な雰囲気の閲覧室



作家・研究者用の調査研究室



マンハッタンのビル群を一望できるカフェ



若者向けTeen Centerの壁面



若者がポッドキャストへ発信するためのレコーディングスタジオ



利用者向け語学教室

出典：ニューヨーク公共図書館ホームページ
(<https://www.nypl.org/events>)